

地域商工業
プロジェクト

学生が大学地域でのイベント協力に参加しました

第三回 「木橋あつちべた
こっちべたフェスタ」
～常滑産業まつり～

開催日 2006年10月29日(日)

常滑と知多半島の「人、もの、食、楽」が大集結するイベントです。街道沿いに、70店を超える出店ブースが並びました。

今回は、窯屋まつりなど4事業が同時開催しました。



今回フェスタのボランティアとして7名の学生が参加しました

「木橋あつちべたこっちべたフェスタ」は第3回目を迎え、今年もさらに多くの地域住民、観光客が集まりました。先号で紹介した実行委員会事務局の永田さんはフェスタ開始から終始大忙しでした。



今回、学生は2店舗を開店。まず、さつまいとジャガイモ料理の店、日本福祉大学有志「いも」。そして国際協力有志「NOBO」では、フェアトレード雑貨&オリジナルTシャツの販売を行いました。



「いも」販売風景



「NOBO」販売風景

また、本学卒業生、濱本さん・長谷川さんの店「結」も大繁盛。しかも、自分たちの店だけでなく本学生の販売の様子を何度も見に行き、大学と地域を結び役割を果たしました。

また、毎年恒例になっているスタンブコーナーの「重ね絵」スタンブや、エコゲームなどの事務局活動に学生がスタッフとして参加。ゲームの景品には常滑焼などの地元企業が協賛し、地域密着型の企画が行われました。

そして、フェスタ協力としてクラフト散歩市など常滑地域に限らず、数人の若手芸術家の作品販売も行われ、終了予定時刻を過ぎてでも賑わいが続きました。



事務局スタッフ

経済学部 三年 小泉保裕君

私がこのフェスタに参加して学んだことは、チャレンジすることの大切さです。このフェスタは知多半島に住む人々が様々なことにチャレンジできる場です。実行委員会も参加出店者も様々なチャレンジをし、具体的な形にすることが出来ます。地域には大学で学ぶことができないものがたくさんあります。また、そこで学んだものを大学で磨くこともできます。

そして、大学で学んだことを実践することもできるのです。何かに迷ったとき、何かを考えているようなことにチャレンジしてみてもいいですか？ たぶん少しは答えが出るのではないのでしょうか。

一木橋あつちべたこっちべたフェスタ実行委員会会長 大蔵餅 稲葉憲辰さん



第三回を迎えた「木橋あつちべたこっちべたフェスタ」も学生さんたちのご協力も頂き、何とか無事に終えることが出来ました。実行委員会のメンバーも少なく、

第八回
尾張大野古今散策

開催日 2006年10月20日(金)～10月22日(日)

民家、空き店舗を利用したギャラリーや、大野町一帯の散策を通じて大野町の活性化を図るイベントです。

地元まちづくり団体「大野コミュニティ」が主催しています。



まだまだ納得のいくものではないと思いますが、常滑の文化、薫りを大切にした常滑の産業観光をこれからは盛り上げ、理想に向け進化していくお祭りしていきたいと思っています。考えてばかりでは何も変わりません。行動こそ人生最大の教師だと思います。ありがとうございます。



尾張大野古今散策実行委員 大野コミュニティ 石井茂さん

大野コミュニティが尾張大野古今散策を始めて今年で八年目になります。



初めは商店街の大野元氣村の日に二軒のギャラリーを出店したのがはじまりです。

年々参加店が増え今年は四十七店になり、散策ガイド、スタンブラリー、写真コンテストも行い、今回は三日間で六千人ぐらいの来訪者の規模になりました。毎年同じことをしてはいる以上の上の来訪者にこの町に来ていただけない。出来ることなら私達と一緒に若い人達に新しい企画を考えて頂きたいと思っています。よろしく願います。



経済学部

講師 西山 敦士